

## 研修会報告

平成 29 年 12 月 21 日 (木)

文責：一般検査部門長 佐藤美砂

研修会テーマ：宮臨技血液部門・一般検査部門合同研修会

「May-Grunwald Giemsa 染色で全身を見る」

開催日時：平成 29 年 12 月 16 日 (土) 14:00～17:00

会場：東北大学医学部中講堂

司会：東北大学病院 検査部 菅原新吾

講演 1：14:05～14:50

座長：重症身心障害児施設 エコー療育園 検査室 佐藤美砂

「体腔液が届いた時、何を考えるか」

講師：東北大学病院 診療技術部検査部門 金沢聖美 技師

講演 2：14:50～15:30

座長：東北大学病院 検査部 菅原新吾

「May-Grunwald Giemsa 染色で分類できない場合

ーフローサイトメトリーの見方・考え方ー」

講師：東北大学病院 診療技術部検査部門 大久保礼由 技師

講演 3：15:45～16:45

座長：重症心身障害児施設 エコー療育園 検査室 佐藤美砂

「一般から血液検査につなぐ体腔液検査」

講師：弘前市立病院 臨床検査科 石山雅大 技師

生涯教育点数：専門 20 点

参加者：会員参加者 44 名、実務員：7 名 (内講師 1 名)、講師 2 名

[内容]

講演 1：体液貯留のメカニズムや漏出液・滲出液の鑑別方法などの基本的な内容から胸水・腹水・心嚢液検査の臨床的意義や注意点について。

講演 2：今後使用施設が増えるであろうフローサイトメトリーの測定原理や結果の見方、症例について。

講演 3：胸・腹水のサムソン染色顕像とギムザ染色顕像を比較しながら体腔液の標準化に向けては各検査部門の連携が必要である。

体腔液検査は一般検査部門のみならず、血液検査部門でも関わっている。また、体腔液検査には生化学検査も重要である。検査部門それぞれの得意とするところを持ち寄ってより良い・より確かな検査結果を出すことがこれからの体腔液検査に望まれることだと思います。そのために他部門間の連携・情報共有が大切であると思いました。

以上です。